

中部大会速報

2 愛知県 名古屋市長立富田 高校

発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月24日

作品名

リーちゃん三世

創作 Original

マスク越し、叫ぶSOS

人生は喜劇だ！

あらすじ

『リチャード三世』——この話の主人公・リチャード三世は生まれつき体はぐちゃぐちゃ、顔はとてもブサイクだった。これでは普通の幸せな生活を送ることはできない。ならば悪党になろうと、彼は人をたくさん殺して王様になった。そんなある夜、彼はその殺した人たちが怨霊となり自分を呪う夢を見た。そして次の日に、彼は戦いの中で命を落としてしまう。

『リーちゃん三世』は、リーちゃん三世こと理沙の血

と呪いと思春期を描いた話である。

この劇で伝えた

かったこと

リチャード三世のストーリーを元に、思春期の少女・理沙の気持ち。

最後のシーンの意図

最後は卒業式ではなく、主人公の部屋で幕を閉じた。その理由は、主人公が卒業式に「出るか出ないか」ではなくて、卒業式に出る「意思がある」かどうかが大切だったからである。

役者の役作りの



マスクを取り、過呼吸を起こすシーン。

思春期に入っている中学生の役を演じるのが難しかった。感情をガンガン吐き出していくストレートさを表現するのに苦労した。

主人公の工夫点

主人公は舞台ではマスクをしていたため、声を出すのが大変だった。更に難しかったことは理沙のキャラ作りである。表向きは強気、内



ラスト、夢の中のシーン。

心は弱気な理沙の、そのギャップを出すのに苦労した。

音響・照明の

苦労した点

最後、いよいよクライマックスというとき、手を差し伸べるシーンで理沙が手を上にする際、照明の光と手をうまく重ねなければならず、苦労した。

照明に合わせて音響を変

え、コロスの歌に合わせるのが大変だった。

練習中のハプニング

安藤役のキャストが県大会の前日に受験があったことだ。焦ったが、結果、最優秀賞を手に入れ、大学にも受かることができて良かった。

苦労した点

部員が十七人であるため練習時間が少なく、本番まで不安でいっぱいだった。

最後に一言

自分たちに関わってくれたすべての人たちに。中部大会に連れてきてくださり、ありがとうございました。

担当 香村 荻田 齋藤 川江 徐